

別表 1

令和7年度 第3回 長野県青少年向け推薦図書一覧表 (2025-3回)

長野県社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 図書審査部会

	書名	著者名	対象	本体価格(円)	発行所・発行年月日
1	うめぼし つくったよ	内野美恵 監修 写真 高橋忠照	幼児～	1,300	ひさかたチャイルド 2025年5月
2	ぼくたちのいえ	作・絵 藤原ヒロ子	幼児	1,500	文研出版 2025年5月
3	じんせい は しがみついて なんぼです	詩 木坂涼 絵 長谷川義史	小学校低学年～	1,700	フレーベル館 2025年2月
4	ダーウィンのむすめ パパとエティのさんぽみち	作 ローレン・ソロイ 訳 まつかわまゆみ	小学校低学年～	2,000	評論社 2025年3月
5	ひろしま絵日記	作者 中澤晶子 画家 ささめやゆき	小学校低学年～	1,300	小峰書店 2025年6月
6	サメのイエニー	作 リーサ・ルンドマルク 訳 よこのなな 絵 シャルロット・ラメル	小学校中学年～	1,700	岩波書店 2025年2月
7	チャレンジ！ロボットコンテスト	作 あさだりん 絵 雛川まつり	小学校中学年～	1,400	金の星社 2025年9月
8	シリアの秘密の図書館	作 ワファー・タルノーフスカ 訳 原田勝 絵 ヴァリ・ミンツィ	小学校中学年～	1,600	くもん出版 2025年5月
9	ゾウのテウニス	作 トーン・テレヘン 訳 長山さき 絵 たまむらさちこ	小学校高学年～	1,500	理論社 2025年6月
10	白い虹を投げる	作 吉野万理子 絵 黒須高嶺	小学校高学年～	1,600	Gakken 2025年3月
11	もしも君の町がガザだったら	著 高橋 真樹	中学生～	1,800	ポプラ社 2025年7月
12	わたしのbe 書くたび、生まれる	著者 佐藤いつ子	中学生～	1,600	KADOKAWA 2025年9月
13	9月1日の朝へ	著者 柳月美智子	中学生～	1,700	双葉社 2025年8月
14	無価値のポラリス	著者 キム・ミンソ 訳者 岩井理子	中学生～	1,500	静山社 2025年10月
15	タイガー	著者 SF・サイド 訳者 杉田七重 装画/本文挿絵 デイヴ・マッキーン	中学生～	3,000	東京創元社 2025年8月
16	ヨルダンの本屋に住んでみた	著者 フウ	高校生～	1,800	産業編集センター 2025年6月
17	天使と歌う	著者 愛野史香	高校生～	1,600	角川春樹事務所 2025年7月
18	マッドのイカれた青春	著者 実石沙枝子	高校生～	1,800	祥伝社 2025年9月
19	アフターブルー	著者 朝宮夕	高校生～	2,050	講談社 2025年7月
20	涙の箱	作 ハン・ガン 訳 きむふな	高校生～	1,500	評論社 2025年8月

別表2

(2025-3回)

	1		6 月は、梅の実がなる季節です。主人公の男の子は、おじいちゃんと一緒に梅とりをしました。桃のようないい匂いがします。このまま食べるとお腹がいたくなっちゃうけれど「梅干しにすれば食べられる」とおばあちゃんが教えてくれたので、梅干しを作ることにしました。男の子とおばあちゃんが梅干し作りをしている様子を写真で見ることができます。最後に自分で作った梅干しを食べている男の子がすっぱそうな顔をしているのが印象的です。自分で梅干し作った満足感も感じるができます。ひさかたチャイルドの「しぜんにタッチ！シリーズ」の1冊で、他にも「ふかふかパンのひみつ」「たけのこ なんのこ？」など多くの本があります。「作る力は、生きる力」をテーマとしている生きる力を育むことができる写真絵本。
	書名	うめぼし つくったよ	
	著者等	内野美恵 監修	
		写真 高橋忠照	
	出版社	ひさかたチャイルド	
	定価	1,300	
	対象	幼児～	
発行			2025年5月
			(分類番号 596)
	2		男の子が自分の家の絵を描きました。すると、12匹の生き物たちがやってきて自分たちの家に招待してくれることになりました。男の子は2匹のネコと一緒にみんなの家を訪ねていきます。12匹の生き物たちは、クモ、アリ、モグラ、コウモリ、トカゲ、カエル、アメンボ、ドジョウ、チョウ、ハチ、リス、カラスです。見開きの左ページには、実際の生き物たちの家のことが分かりやすく描かれていて、右ページは、もしその生き物の家に男の子と2匹のねこと一緒に暮らすとしたらどうなるかと想像してファンタジーの世界を表現しています。リアルとファンタジーの世界を行き来しながら私たちの身近にいる生き物達に興味を持ち、自分たちの身近にある自然にもう一度興味をもつきっかけを与えてくれる生き物絵本。
	書名	ぼくたちのいえ	
	著者等	作・絵 藤原ヒロ子	
	出版社	文研出版	
	定価	1,500	
	対象	幼児	
発行			2025年5月
			(分類番号 48)
	3		この本には、コアラ、ダチョウ、馬などの動物やジンベエザメ、クロマグロなどの魚、カブトムシ、カマキリなどの昆虫など36種類の生き物たちの心の声が詰まっています。全体を地の章と水の章の二つに分けてあります。生き物たちの「つぶやき」に耳をすますと、くすっとしたり、はっとしたり、じんとしたりします。木坂涼さんの詩に長谷川義史さんが素敵な絵を描いています。一人で読んでも、大勢でそれぞれの役になりきって読んでも楽しめます。私たちの身近にいる生き物達の立場に立って自分たちの身近にある自然について、もう一度考えるきっかけを与えてくれる詩の絵本。
	書名	じんせいはいがみつってなんぼです	
	著者等	詩 木坂涼	
		絵 長谷川義史	
	出版社	フレーベル館	
	定価	1,700	
	対象	小学校低学年～	
発行			2025年2月
			(分類番号 911)
	4		偉大な科学者であるチャールズ・ダーウィンとダーウィンの娘で大人になって父の研究を支える役割を果たしたヘンリエッタ・ダーウィン（エティ）が、この本の主人公です。エティは、おとぎ話が大好きで妖精の存在を信じています。エティの父であり、科学者であるダーウィンは、科学が大好きです。ダーウィンは証拠がないものを信じるのは難しいと言います。二人はサンドウォークと名付けた散歩道を毎日2回歩いて考え事をしました。二人は散歩の時間が大好きでした。それはなぜかという・・・。科学的な思考には、心を開いて想像の翼を広げることが大切であることを教えてくれる絵本。
	書名	ダーウィンのむすめ パパとエティのさんぽみち	
	著者等	作 ローレン・ソロイ	
		訳 まつかわまゆみ	
	出版社	評論社	
	定価	2,000	
	対象	小学校低学年～	
発行			2025年3月
			(分類番号 933)
	5		小学校2年生のみなみちゃんは、夏休みに一人でお泊りに行くことになりました。90歳を過ぎたひいおばあちゃんのふみこさんの家です。みなみちゃんは犬糞とカステラを持ってふみこさんの所へ行きました。ある日、みなみちゃんは押し入れで1冊の絵日記を見つけました。それは、ふみこさんの妹のまあちゃんが小学校2年生の時に書いた絵日記でした。その日記は8月5日までで終わっていました。明日は、桃を食べるのが楽しみだ、と書いてあったのに。80年前に書かれたまあちゃんの絵日記を読んだみなみちゃんは、苦手に思っていた絵日記を書き始めることにしました。戦争のこと、原爆のことを考えるきっかけとなる戦争絵本。
	書名	ひろしま絵日記	
	著者等	作者 中澤晶子	
		画家 ささめやゆき	
	出版社	小峰書店	
	定価	1,300	
	対象	小学校低学年～	
発行			2025年6月
			(分類番号 913)

	6		<p>イエニーはサメが大好きな大人しい女の子。大きな声で話したくないと思っているし、本が大好きで、ひとりで過ごす時間もとても気に入っている。けれど、周りの大人や友達イエニーのことをわかってくれない。大きな声で話させようとするし、外で遊ばせようとする。ある日、水族館で出会ったサメにイエニーは悩みを打ち明け、ありのままの自分であるための作戦を考えはじめる。スウェーデンの児童書だが、日本をはじめ世界各国で翻訳され、スウェーデンやイタリアで賞を受賞している。子どもの想像力や感性によりそい、ありのままの自分であることに対してポジティブに背中を押してくれる物語。</p>
	書名	サメのイエニー	
	著者等	作 リーサ・ルンドマルク	
		訳 よこのなな	
		絵 シャルロッテ・ラメル	
	出版社	岩波書店	
	定価	1,700	
	7		<p>将来はゲームを作る人になりたい快は、もちろんゲームをするのも大好き。でも、約束を守らなかったせいで、ゲームは取り上げられ、通い始めたプログラミング教室もやめさせられそうになる。快はプログラミングが役にたつことを証明するために、小学生のロボコンに参加することにする。ロボットプログラミングクラスの真斗とチームを組むことになるが、「ゲームを取り戻したいから」という理由を聞いた真斗は快につめたくあたる。身の回りの物を使って自分で考えたロボットを作るのは意外にむずかしくて、快は悪戦苦闘する。ロボットに真剣に向き合っていくうちに、みんなで意見を出し合うようになり大会に向けてロボットは改良されていく。小学生ロボコンを舞台にした物語。</p>
	書名	チャレンジ！ロボットコンテスト	
	著者等	作 あさだりん	
		絵 雛川まつり	
	出版社	金の星社	
	定価	1,400	
	発行	2025年9月	
(分類番号 949)			
	8		<p>ヌールの暮らすダマスカスは、「香りの町」と呼ばれ、アンズやサクランボの果樹園のよい香りに包まれたところだった。しかし、戦争がせまり、町の様子は一変してしまう。砲弾で建物を崩され、学校は休みになり、人々は地下室で暮らすことを余儀なくされる。そんな中、ヌールはいとこのアミールとあちこちの崩れた家から本を拾い集め、地下に秘密の図書館をすることにする。やがて図書館は、町の子供たちの希望の場所となり、大人たちも利用するようになっていく。シリアで実際に存在した地下図書館をモデルに描かれた絵本。</p>
	書名	シリアの秘密の図書館	
	著者等	作 ワファール・タルノーフスカ	
		訳 原田勝	
		絵 ヴァリ・ミンツイ	
	出版社	くもん出版	
	定価	1,600	
	発行	2025年5月	
(分類番号 726)			
	9		<p>テウニスはゾウの男の子だが、人間の住む街で暮らし、人間の子どもたちばかりの学校に通っている。クラスのみんなには簡単にできることがテウニスにはできない。ゾウのテウニスにとってペンを使って書くことや、ピアノやリコーダーを演奏することはむずかしい。周りの人たちはテウニスをあたたかく受け入れてくれるが、テウニスは、どうしてニンゲンの男の子じゃないのか、ニンゲンになりたいのか、と自分のアイデンティティに悩む日々を送る。周りとは違っていいのだと自分に自信をもっていくテウニスを見守りながら、自分と違う友達へ思いをはせることができる物語。</p>
	書名	ゾウのテウニス	
	著者等	作 トーン・テレヘン	
		訳 長山さき	
	出版社	理論社	
	定価	1,500	
	発行	2025年6月	
(分類番号 949)			
	10		<p>同じ野球チームの親友、ヤヤと葉央だったが、ヤヤの転校をきっかけにそれぞれ別の野球チームでがんばることになる。しかし、ヤヤは新しい野球チームになじめず、残されてキャプテンを引き継いだ葉央はメンバー不足で試合ができないという課題に直面する。二人はメッセージを送りあい、今の状況を報告しあいながら、互いに励ましあう。そんななか、ヤヤは新しいチームで「キャッチボールクラシック」の大会について知る。ヤヤと葉央は「キャッチボールクラシック」の大会で再会しようと約束するが、それぞれがチームや家で抱えている問題がたくさんあり、なかなかうまくいかない。多様性、兄弟関係、チームメイト不足、男女の差……いろいろな悩みを乗り越えてボールをつなぐ友情物語。</p>
	書名	白い虹を投げる	
	著者等	作 吉野万理子	
		絵 黒須高嶺	
	出版社	Gakken	
	定価	1,600	
	発行	2025年3月	
(分類番号 913)			

	11		ハマスによるイスラエルへの奇襲攻撃に端を発し、イスラエルによるパレスチナへの侵攻が始まってから2年が経過した。ガザやヨルダン川西岸地区では何が起こっているのか。子どもを含むあまりにも多くの命が失われ、今もなお占領、封鎖、爆撃、飢餓といったあらゆる人道的危機に瀕している。なぜこのような事態になっているのか、本書では歴史的な推移もふまえ、パレスチナ・イスラエルだけでなく、周辺の国々や欧米各国とのかわりも説明されている。「もしも自分の町がガザだったら」だけでなく、「イスラエルだったら」と想像するためには、まず知ることが必要だ。写真や図も多く用いられ、視覚的にも理解しやすく書かれ、大人にとっても読みごたえのあるパレスチナ問題の入門書となっている。
	書名	もしも君の町がガザだったら	
	著者等	著 高橋 真樹	
	出版社	ポプラ社	
	定価	1,800	
	対象	中学生～	
	発行	2025年7月	
(分類番号 302)			
	12		中高一貫校の高等部に中学部からもちあがった文香。容姿に自信のない文香はメイクの練習をして高校デビューを夢見ていた。イケてる部活動、イケてる友人、と新たな生活を夢見たが、消去法により中学時代と同じ書道部を続けることにした。その書道部に、高等部からの入学生で美しい目を持つ美貌の男子、佑京が入部してきた。文香は佑京に恋心を抱くものの、学年でも評判の美少女、蘭がダンス部と掛け持ちで書道部に入りたいと言ってきた。彼女も佑京目当てらしいと知った文香の心は揺れるが、佑京が真剣に書道に向き合う姿に心打たれ、文香も自分の書を追求しようと次第に書道そのものにのめり込んでいく。何かに夢中になること、自分らしくあることの美しさを描いた、爽やかな一冊。
	書名	わたしのbe 書くたび、生まれる	
	著者等	著者 佐藤いつ子	
	出版社	KADOKAWA	
	定価	1,600	
	対象	中学生～	
	発行	2025年9月	
(分類番号 913)			
	13		「9月1日」は、夏休みが終わり新学期が始まる日。そして日本では子どもたちが最も多く命を絶ってしまう日と言われている。この物語は、それぞれ悩みを抱えた高永家の四兄妹が夏の終わりを乗り越え、「9月1日の朝」を迎えるまでを描いた青春家族小説。家庭環境も少々複雑で、父親と3人の母親がいる高永家。4人兄妹の長男は筋トレ好き、一年目の中学校教員、次男はひょうひょうと生きる高3の美容男子、三男は進学校にスカートをはいて通う高1、末っ子の妹は夏休み中に突然、人間関係の悩みに襲われる。年齢も立場も異なる彼らが抱える友人関係、進路、いじめ、アイデンティティの悩み、そして家族への思い。思春期特有の繊細さや生きにくさとともに、かけがえのない命と未来への希望を描いた傑作。
	書名	9月1日の朝へ	
	著者等	著者 柳月美智子	
	出版社	双葉社	
	定価	1,700	
	対象	中学生～	
	発行	2025年8月	
(分類番号 913)			
	14		15歳の少年たちが自分たちの居場所を探し、もがきながら存在意義を見つけようとする物語。物語の中心になるのは、少年アン・ユル。感情を出さず「強いものには弱く、弱い者には強く」を信条とし、人間関係を上手くやりすごすために4人グループのナメられ役に徹している。グループでもクラスでも人気者のソ・ジヌクの思わぬ秘密を知ったこと、学校では存在しないような扱いをされるイ・ドヘとの偶然の出会いによって、誰もが人に話さない悲しみや苦しみを心の内に抱えていることを知り、自分の心と向き合いはじめ、少しずつ変化していく。競争社会、虐待、貧困のなかにあっても、繊細な心で親の愛を求める少年たち。他者とのかわりによって「価値ある存在」として成長していく感動作。
	書名	無価値のポラリス	
	著者等	著者 キム・ミンソ 訳者 岩井理子	
	出版社	静山社	
	定価	1,500	
	対象	中学生～	
	発行	2025年10月	
(分類番号 929)			
	15		今も帝国主義が続く架空の町・ロンドンを舞台にしたファンジー。主人公の少年アダムは移民居住区「ゲットー」で暮らしている。ある日、配達のために訪れたロンドンの町中で追いはぎに襲われたアダムは、逃げ込んだ建物の中で絶滅したはずの生き物「タイガー」に危ないところを助けられる。体に刺さっていた矢をアダムに抜いてもらったタイガーは人の言葉で話し、この歪んでしまった世界の、隠された秘密を語り始めた。衝撃を受けながらもタイガーの言葉を信じたアダムは、友達のザディーと協力し、知恵を絞って世界とタイガーを救う冒険にのぞむ。彼らの勇気と友情は、やがて姿を現した悪魔のような敵に打ち勝てるのか？ 迫力ある魅力的な挿絵とともに味わってほしい物語。
	書名	タイガー	
	著者等	著者 SF・サイード 訳者 杉田七重 装画/本文挿絵 デイヴ・マッキーン	
	出版社	東京創元社	
	定価	3,000	
	対象	中学生～	
	発行	2025年8月	
(分類番号 933)			

	16		大学生の時20ヵ国ほどを旅した著者は、今度はその国で現地の人と一緒に普通の生活を送るような「滞在」をしたいと思い、ネットで中東ヨルダンにある本屋を見つける。「ここに住み込んで働きたい！」と熱意と自己アピールを込めたメールを送ると、一言「OK」の返事が。一か月間弁当配達をして渡航費を貯め、言葉も習慣も何も知らないヨルダンの本屋へと向かう。本屋はカフェや庭のある複合施設で、いろいろな国の人が一緒に働いている。ヒゲモジャのヨルダン人店長、大工でフランス人のアリスとイギリス人のデイビッドは名コンビ、イラク人のシモンとエジプト人のセリーナは通いのバリスタ、同時期に働き始めたイタリア人のラウラは同い年。個性豊かな人々とのエピソードや文化の違いを面白く楽しく伝えるヨルダン滞在記。
	書名	ヨルダンの本屋に住んでみた	
	著者等	著者 フウ	
	出版社	産業編集センター	
	定価	1,800	
	対象	高校生～	
	発行	2025年6月	(分類番号 292)
	17		部活を引退した高校3年生の雨宮大夢は、進路に悩んでいた。10年前、親の離婚により心に傷を負った大夢は、隣の家に住む元世界的なチェリストであるルカ・デリッチ先生と出会い、愛用のチェロを借りて指導を受けていた。多発性硬化症を患い身体が不自由な先生を支えるため、介護福祉士になる決意をした大夢。そこに「ルカ・デリッチ国際コンクール」を新設したいという知らせが届き、先生は2年後に新設される年齢制限のない音楽コンクールの審査員長として祖国クロアチアに招聘される。「私以外を知りなさい」と先生に言われ音大に進んだ大夢は、再会を期してコンクールへ出場する。沢山の挑戦者たちとの熾烈な戦いを経て、音楽や周囲の人達と接する中で自分を見つめ、新たな目標へと向かっていく大夢の成長譚。
	書名	天使と歌う	
	著者等	著者 愛野史香	
	出版社	角川春樹事務所	
	定価	1,600	
	対象	高校生～	
	発行	2025年7月	(分類番号 913)
	18		県立第一高校（イチコー）に通う槇島朱里ダイアナは、イギリス人の母を持つハーフの女子高校生。幼馴染の佐々木忍が小学生の頃につけた、名前の頭文字をとって「マッド」という、とんでもないあだ名を彼女は気に入っている。圧倒的な美貌を誇っているマッドは飾り気なく正直で平等な性格だが、その見た目のせいでずっと嫉妬と反感の対象となってきた。容姿に劣等感を抱く馬淵季子と親友になり、お互いのために外見で人を判断する理不尽さと戦う。周囲の人々は、マッド自身は何とも思っていないのに、勝手な思い込みで敵視したり、媚びたり、憧れたりする。「ルッキズム」をテーマにマッドと彼女に関わる、見た目から逃れられない若者たちが悩み迷いながら成長していく姿を描く、6つの連作青春短編集。
	書名	マッドのイカれた青春	
	著者等	著者 実石沙枝子	
	出版社	祥伝社	
	定価	1,800	
	対象	高校生～	
	発行	2025年9月	(分類番号 913)
	19		株式会社C・F・Cは納棺師、遺品整理士、生花装飾技能士など葬儀関係のプロ集団。中でも二課は正式名称「特殊復元処置衛生課」といい、事故や事件、自殺などで亡くなった損傷の激しい遺体を生前の面影を復元して、ご遺族と対面できるようにすることを目的としている。二課を立ち上げた課長の有明を筆頭に、外施行とアフターケアを多く扱うリーダーの入相、何事も直感で動く処置が上手な八宵と冷静沈着で慎重派のメイクが得意な朝末は同期。そこに新入社員として新卒の優等生東雲が加わる。それぞれが辛い過去やトラウマに悩みながら遺族や遺体と向きあい、少しでも後悔のないお別れができるよう心を込めて仕事をする中で、自身も癒され変わっていく。人の死と真摯に向き合う喪失と再生の物語。
	書名	アフターブルー	
	著者等	著者 朝宮夕	
	出版社	講談社	
	定価	2,050	
	対象	高校生～	
	発行	2025年7月	(分類番号 913)
	20		それほど昔ではない昔、ある村に「涙つぽ」と呼ばれる子どもが住んでいた。本当の名前は別にあったが、どんなことにも涙を流してしまいうためそう呼ばれるようになった。周りにも家族にも理解されず孤独な子どものもとへ、あるとき黒い服に黒い帽子のおじさんがやってきた。彼は涙を集めており、特別な涙を探していて、これから涙を必要とする人に売りに行くという。「青い明け方の鳥」という青ウグイスを連れたこのおじさんと一緒に、「涙つぽ」は旅に出た。その中でさまざまな感情を少しずつ心に蓄えながら、涙の買い手である嬉しくても悲しくても涙を流せないお爺さんとお出会う。美しく繊細なきらめきが「純粋な涙とはなにか？」を考えさせる大人のための童話。
	書名	涙の箱	
	著者等	作 ハン・ガン 訳 きむふな	
	出版社	評論社	
	定価	1,500	
	対象	高校生～	
	発行	2025年8月	(分類番号 929)